

# 秋田杉でスマホの音増幅

## 辞書型、インテリアにも

### 電源不要、間伐材スピーカー

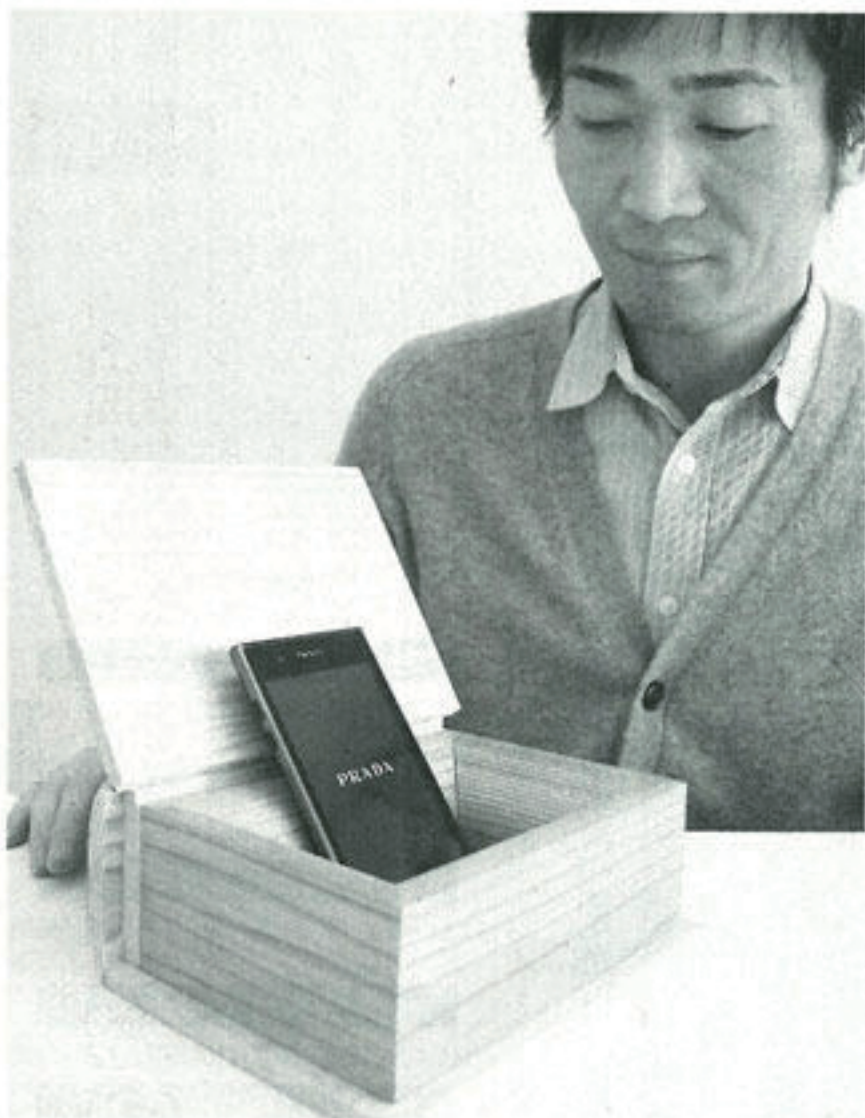
木工製品の開発や木材を使った教育活動を展開している団体「秋田木育プロジェクト」(秋田市)が、秋田杉の間伐材を使ったスマートフォン(高性能携帯電話)向けスピーカー「ディクショナリー・ホーン」を開発した。電氣的に音を増幅するのではなく、スピーカーの小さな音を反響・共鳴させる仕組み。美しい木目と辞書のような形が特徴だ。

製品は縦18センチ、横14センチ、

厚さ8センチで、漫画本5冊を重ねたほどの大きさ。丸太から切り出した「無垢材」を使い、秋田杉特有の赤みを帯びた色合いが美しい。

厚さ約5ミリの「表紙」を開いてスマートフォンをセットすると、箱の内部で音が響き、シャカシャカとした雑音は和らぐという。箱にスマートフォンを置くだけという手軽さが魅力だ。

製品の広報を担当する



辞書型のスピーカー「ディクショナリー・ホーン」(21日、秋田市山王中園町で)

ウェブデザイン会社「フォチューナ」の八木沢栄治社長(34)は「間伐材を使うことで秋田杉を有効活用でき、二酸化炭素排出量の削減にもつながる」と意気込む。

最も苦労したのは「デザイン性を保ちながら音を増幅させる」構造の確立。設計したデザイナーの大野英憲さん(40)は、スマートフォンを置く「朝顔型」のくぼみなどに試行錯誤を重ね、約3か月がかりで完成させた。「インテリアとしても成り立つ製品にしたかった。びっくり箱みたいな感覚で見た目の面白さを楽しんで」と話す。

ディクショナリー・ホーンは4月下旬から販売。価格は3800円(予定)。問い合わせは同プロジェクト(018・8800・5145)へ。

USO放送